

切手の日誌

Stamp Diary



2011年4月号

4月4日（スリランカ）

先月申出を受けたスリランカから、お手紙が到着した。自分から申出をしておきながら、私からの受取りを確認した上で送付するなど厚かましいと思っていたが、ひとまず有言実行で無事に受け取った。



もっと紙っぺらい、チャッチい切手を想像していたが、意外に先進国風（我ながら傲慢な物言いだ）。今月の表紙はスリランカから。

まあ、仕方がないことであるが、Mr. はちょっと悲しいな。

今月は他にニュージーランド（25枚）、スリランカ（100枚）、フランス（ジョゼとイザベラ）、東京在住のフィリピン（20枚）、インドと申出を受けている。楽しみ。

4月7日（日本1971）

1970年代をいくつか紹介。



1971年発行の南極条約10年（そのままですな）。

主観的で全く説得力がないが、この時代の切手の多くは独特の雰囲気を出している気がする。眺めていて、つくづく良いなと思う。説得力のないこの感動を、どう説明すればよいか？ きっと図案を考えた人は楽しんで仕事したろうな。

4月8日（日本1971）

これも1971年発行から、戸籍制度100年である。



日本人の割にはお目めぱっちり、花は少し団子っ鼻らしく、口は（いつから話題なのか不明ですが）アヒル口（くち）ではないか？

これも意味なく気に入っている一枚。

4月9日（日本1972）

今月の1970年代からの紹介の最後の一枚はこれ。



1972年発行学制100年、男児と女児が重なりあっている少し工夫が感じられる図案。色彩も上品な仕上がりではないかと思っている。

極端な言い方は承知の上で、これ以降はシリーズものの発行が増えたり、図案も変にデザイン性を意識した自意識過剰（と私は呼んでいる）な傾向が現れてくる気がしている。明日はそんな一枚を紹介したい。

4月10日（日本1981）

「デザイン性を意識した自意識過剰」と私はやや皮肉めいて言い切ってしまったが、この切手も改めて眺めると満更悪くない。しかも、現物より大きくしてみると、日頃軽く目にして流してしまうだけで気がつかない色使いやデザイン、オブジェの配置などとテーマ（神戸ポートアイランド博覧会記念）が気になってくる。



言及するまでもない1981年発行の「神戸ポートアイランド博覧会記念」。神戸と言えば震災を思い出す昨今だが、まだ静かなころの神戸である。1981年は「ルビーの指環」や「ギンギラギンにさりげなく」がヒットした年で、バブル前ですな。

今月の日本からの紹介はこれくらいにする。

4月15日（フランス）

ジョゼから第4弾が届く。



こうしてみると地味だが、A5（A4の半分）くらいの大きさがあり、ポストで発見したときにはインパクト大。しかも、1枚であるがイチゴの切手もキュート。

すっかり強い絆ができた私たちである。

4月16日（フランス）

実は昨日に続き、フランスのイザベラからも第2弾が届く。



この方、お兄さん（もしくは弟）家族が島根に住んでいるらしい。第1弾が気に入ってくれ、第2弾の交換を行ったが、今回で終わりそう。しかし、結構気を使ってセレクトしてくれた160枚であった。

4月17日（フランス1972）

ジョゼ、イザベラとフランスものが集まった今月であるが、まだまだ未整理。そのなかから、しょうもない(?)ものを発見したので軽く紹介する。



1972年発行の札幌オリンピックにちなんだ切手であるが、右上に新幹線が…。しかも左側には富士山と思われる山や、正体不明のお城（大阪城か？ 江戸城か！）がある。フランスほどの親日国において、札幌オリンピックで何故これらが登場するのだろうか？

4月23日（東ドイツ1963）

少し無精をして画像が見難いのご勘弁願う。現在管理の方法を試行錯誤の最中と言い訳で始まってしまったが、ここで東ドイツから何枚か紹介する。



1963年発行のライプツィヒ・メッセ（見本市）3枚からの1枚である。wikipediaによるとライプツィヒのメッセは世界最古で1190年から続いているとある。ドイツ人は好きそうだから、見本市みたいなもの。

個人的には切手のテーマより、ちょっとチェコ・スロバキアっぽい雰囲気惹かれて選んでしまった。3枚揃うともっとチェコ・スロバキア（建物と背景の色が異なり、フレームや大きさは同じ）。

4月24日（東ドイツ1968）

最初知らずに見た時は、何をモチーフにした切手かと思った。が、気づく人は気づく（かなりの歴史マニア？）かと思う。これはある場所のステンドグラスとのことだった。



1968年発行の3枚組は、ドイツのザクセンハウゼン強制収容所跡の記念館入口にあるようだ。ステンドグラスも3枚存在し、切手も3枚揃うと結構壮観であるが… 負の遺産である記念館にちなんであるのが少々皮肉かな。だけど、3枚揃えたいかも。

4月25日（東ドイツ1971）

今月紹介の東ドイツからは最後の1枚。何と訳せば適切なのか自信無いが、1971年発行「ベトナム救済」である。年次発行なので、数年分集めて遷移を楽しみたいが、これ1枚のみ持っている。



表情がアジア人ではないし、ベトナムの雰囲気伝わってこないぞ。

4月26日（スリランカ）

スリランカから到着した。今月初めのスリランカの方は普通であったが、この人はFacebookに登録すると、馴れ馴れしい英文でややしつこかった。せっかくなので彼のページを見たところ、マイケル・ジャクソン風のキモい写真が掲載してあったので、そそくさとページを閉じた。

7割ほど諦めていたが、律儀に約束の100枚を送って寄越したが、半分はスリランカ以外（西ドイツが多い）で内容は今ひとつだった。切手収集家の内容ではないな。



切手をダシにした新たな出会いサイト系の国際勧誘か？

4月27日（アメリカ）

初めてアメリカより交換の申出を受ける。1960-1990ころのアメリカの切手は社会性が反映されているようで、結構好みなので喜んで応じると、早速送ってきました。



詳細に確認してないが、まあ悪くない内容であった。到着の連絡をすると、先方も私の切手を受取り気に入ってくれたらしく、第2弾の申出を受けた。まあG.W.中にも対応をしよう。

明日から神戸に1泊2日小旅行してくる。初めての神戸に期待大。